



p2-4

## 地域を良くするお金のこと

～コミュニティ基金の事例～

p5\_サポセンの事業報告

p6\_[チャレンジャー]

Teen's 遊びと語りの場  
まつど\*あそびラボ

p7\_サポセン新規届出団体

p7\_[スタッフコラム]

多様化していく  
大学の地域連携のカタチ

p8\_[ある日のサポセン]

イベントのチラシを  
効果的に使いたい!



特集

地域を良くする

お金

のこと



自分のできることで、少しでも誰かのためになれば嬉しい。

そんな想いを行動に移す方法の1つである「寄付」は、  
日本でも少しづつ身近になってきたように思います。

そんな誰かの想いのこもったお金を、身近な地域で循環させる仕組みとして  
「コミュニティ財団(基金)」というものが広がっていることを、ご存じですか？

暮らすまちへの恩返しとして、

想いを循環させる方法がここにあります。



1

コミュニティ基金の事例

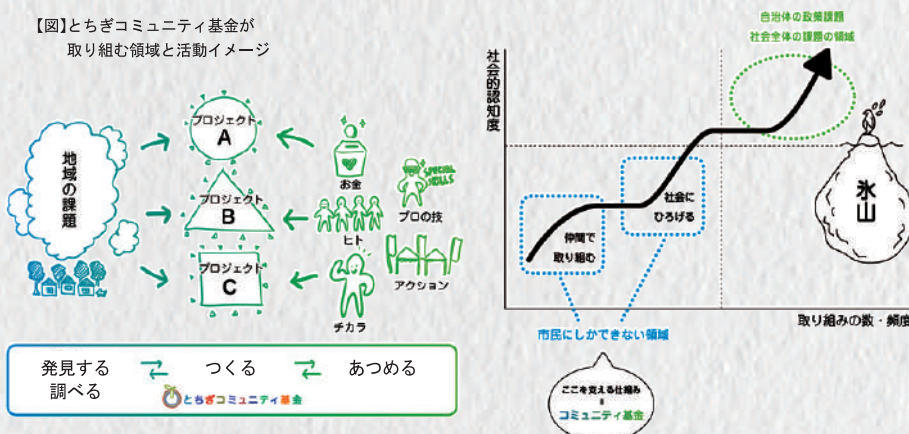
### とちぎコミュニティ基金 (注2)

とちぎコミュニティ基金(以下、とちこみ)は、地域の課題をみんなで解決する「市民の基金&プロジェクト実行チーム」として、2008年に県内初のコミュニティ基金となり、6つの団体が集まって結成されたのが始まりです。

栃木県内でも、子どもや若者の貧困や、80代の親が50代の子を支える「5080問題」、地域福祉、国際化による文化や生活の多様化、災害、多様な雇用、地球温暖化、里山の荒廃、様々ないきづらさを抱えた人たちもいます。一方で、それらの課題や困りに立ち向かい、より良い暮らしを作り支えようとしている地域の団体や当事者グループなども数多くあります。その解決や改善のためには、資金集めや人集めなども必要です。そこで、団体の垣根を超えて、みんなで課題に向き合い、資金(志金)や人などを集めて解決に取り組む人を増やすというのが、とちこみです。これまでに36,990,704円の寄付が集まり、283の団体に助成し、寄り添い並走しながら支援を行なわれています。(図)

基礎情報	団体名	とちぎコミュニティ基金
	所在地	栃木県宇都宮市埴田2-5-1 共生ビル3階 認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク内
	URL	<a href="https://www.tochicomi.org/">https://www.tochicomi.org/</a>

【図】とちぎコミュニティ基金が  
取り組む領域と活動イメージ



「コミュニティ財団(基金)」という仕組み  
コミュニティ財団とは、特定の地域(コミュニティ)に根差し、個人・企業・団体から集められた寄付を元に基金を作り、その地域のニーズに合った助成事業等を行う組織です。一般社団法人全国コミュニティ財団協会の正会員になっているコミュニティ財団およびその準備組織だけでも、全国に30団体あることがわかります(注1)。

資金の集め方も、使い方も、地域の状況や基金のコンセプトに合わせて柔軟な運用がされており、近年の「終活」ブームを受けた遺贈寄付の受け皿としても注目されています。  
今回はその中でも、栃木県内で地域に根差した活動を展開する「とちぎコミュニティ基金」と、千葉県内で独自のテーマで活動する2つの基金についてご紹介いたします。



# 「たかはら子ども未来基金」

今回は、そんなとちコミが運営する基金のひとつである「たかはら子ども未来基金」を紹介します。  
ある想いを持った県内在任の丁夫妻(仮称)からの個人寄付をもとに、2017年に立ち上げられたものです。

## 子どもや若者の「未来の可能性」を支えるために

「自分たちを育ててくれたこの地域への恩返しと、境遇によって自らの人生を拓くことが難しい状況にある子ども・若者のために何かしたい」という気持ちから、丁夫妻はご自身の資金の一部を活用できないかと、とちコミに相談を持ち掛けられました。

とちコミ事務局の大木本(おおきもと)さんは、丁夫妻の気持ちを丁寧にくみ取り、なおかつ地域にとっても最大限に有効なお金の使い方ができるようと、何度も何度もやり取りを重ねられたそうです。そうして考えられたのが、同基金の使い方を2つに分け、片方は県内のNPOに対して活動費等を助成する「助成部門」、もう片方はNPOに一定期間若者がインターンシップをすることを支援する「学生インターン部門」として、運用するというやり方です。



↑とちぎコミュニティ基金事務局・大木本 舞さん



↑インターンシップ活動中の様子



↑インターンシップ修了式の様子

「助成部門」では、県内で多様な状況にある子ども・若者の支援に取り組みNPOに対して、活動費を直接助成します。(注3)

「学生インターン部門」では、そうした県内のNPOで、若者(主に大学生)が、6ヶ月間・計24日ほどインターンとして活動することを支援するというものです。学生インターンには活動費として、受入れNPOには受入れ費用として、双方に助成を行うとともに、とちコミ事務局が間に入って、学生と受入れNPO団体の募集、双方のマッチング、活動中のフォローアップ等を行います。(注4) 2019年度は4つの団体に5人の学生が活動。1、2ヶ月ごとにある学生交流会(インターンをしている学生同士でご飯を食べながら、交流する機会)では、手探りしながら、一生懸命活動に取り組む学生の姿がみえたそうです。

## 民間基金ならではの柔軟でオリジナルな運用

この仕組みにより若者は、教室ではなく地域の現場で、まちの課題や取組みに直接触れることができます。また、若干でも活動費を助成することで、アルバイトで生計を立てているため学びを制限せざるを得ないような若者も参加しやすい環境をつくりました。NPOにとってもインターンを受け入れることで、若者の視点で日々の活動を見直したり、新たな発想を得ることができ、長期的に見て団体の組織基盤強化につながることができそうです。

さらにユニークなのは、助成先および学生インターン受入れ団体は、子ども・若者への支援が特に不足している栃木県北の団体が優先的に取り上げられているということです。このように柔軟でオリジナルな運用ができるのも、市民がつくる民間基金ならではの特徴といえるでしょう。

一組の夫婦の想いから始まった取組み。その想いの詰まったお金を地域で息長く、有効に活用できるように考えて運用を行うとちコミ。両者の二人三脚によって、地域でやさしいお金の循環が起きていくように感じました。



インターン生が作成した活動報告のかわら版「たかはら日和」→



## notes

(注1) 一般社団法人全国コミュニティ財団協会HP「加盟団体一覧」より。(https://www.cf-japan.org/blank-7 2020年3月5日現在)

(注2) とちぎコミュニティ基金に関する記述は、2019年10月10日にNPOインターンシップラボが主催した勉強会「地域と若者をつなぐコーディネーションについて考える vol.4 まちのコミュニティ基金が創る! NPOインターンシップ」の内容を元に執筆しています。(NPOインターンシップラボHP: https://npo-internship-lab.net/archives/93 2020年3月5日現在)

(注3) 助成部門は2019年度より新規の公募を停止し、2年目以降の継続助成のみ。

(注4) 2019年度募集の場合。その他、詳細はウェブサイトへ。インターン生自ら発案し発行している通信「たかはら日和」も閲覧できます。https://www.tochicomi.org/subsidy/ たかはら基金-学生インターンシップ/

たかはら基金-学生インターンシップウェブサイト





2

コミュニティ基金の事例

## チャンス創造ファンド

<https://uwnchiba.net/support/fund/>


## あなたの寄付が社会投資につながる

心身の不調や長期のブランクなどによる“働きづらさ”を抱え、すぐに就労することが難しい方に、一定の配慮と支援をすることで働くことを促進する「中間的就労」を推進している NPO 法人が設立した基金。働く意欲があって、そのためのサポートを受けたり就職活動をしたいけれども、その期間の交通費など経済的理由で支援を受けることができない人のために、一人でも多く就労支援の機会を届けたいという願いから生まれました。このような支援を受けて働くことができる人が増えることは、結果として社会の支え手(納税者)が増え、社会全体が豊かになる先行投資(社会投資)になります。

## 運営している財団の紹介

UWN

ユニバーサル就労ネットワークちば

「誰もがあたりまえに社会参加できる地域社会」を目指して、働きづらさを抱えている人への伴走型支援や、中間的就労を受け入れる事業所の開拓、企業や団体の支援を行っています。



問い合わせ先

団体名 特定非営利活動法人ユニバーサル就労ネットワークちば  
所在地 〒260-0013 千葉市中央区中央 3-9-9 エレル千葉中央ビル 304  
TEL/FAX TEL:043-306-2564 FAX:043-306-2574  
E-mail info@uwnchiba.net

## 千葉県内で独自のテーマで活動する2つの基金

3

コミュニティ基金の事例

## まつど子育てささえあい基金

<https://chibanowafund.org/?info=1984>


## 「孤育て」を防ぎ、子育てを地域で支える仕組み

10人に1人が産後うつを発症、児童虐待相談対応件数は過去最多を更新、子どもの自殺者数が過去最多。これらに限らず、子育てや子どもを取り巻く悲しいニュースは後を絶ちません。松戸市においても、経済的困難に何かしら当てはまると定義された世帯が4人に1人という調査結果も出ています。本基金は、課題の背景にある子育てにおける「見えない孤立感」に焦点をあて、松戸市全体で取り組んでいこうというプロジェクトを持続的に運営していくために立ち上げたものです。「子育ては親だけの責任でない、誰かに頼っても良いんだよ」という風土を松戸に広げることを目指して、WEBサイトの公開・啓発グッズの配布・支援者による円卓会議などの事業をスタートしています。

## 運営している財団の紹介

XXX

ちばのWA地域づくり基金

あらゆる人たちが主体的に地域の未来を担い合うために必要な資源(人・もの・資金・情報)を循環させる仕組みをつくり、持続可能な地域社会の実現を目指し助成を行うコミュニティ財団。

問い合わせ先

団体名 公益財団法人ちばのWA地域づくり基金  
所在地 〒260-0033 千葉市中央区春日 1-20-15 篠原ビル 301  
TEL/FAX TEL:043-239-5335 FAX:043-239-5336  
E-mail info@chibanowafund.org





## 松戸を手づくりで面白くしよう！ まつどみらい会議 2019

「松戸にこんなことがあったらいいな」というつぶやきを、みんなで語り合って新しい暮らしスタイルを実現していく、まつどみらい会議。今年で5回目となり2019年12月に105名が参加して開催しました。

アツい想いを持ったプレゼンター  
5名が登場！

今回初の取り組みとして、松戸に実現したいテーマを持っている方を事前に募集したところ予想以上のエントリーがあり、厳選された5名が当日プレゼンしました。途上国での支援を広げていく活動を松戸とつなげるプロジェクトや、新しくオープンしたキテミテマツドを若い力で盛り上げていくイベントなど、これまでにない提案が出されました。



数か月後にはあなたが写っているかもしれない！と語る中村さん。



サポートセンターの近くにご飯を買う場所もないということで、調理をテーマとしている市民活動団体に協力していただき、一日限りの食堂を開催。矢切の農家さんともコラボして、地元のお米となんと矢切ネギをふんだんに使った料理がふるまわれました。ワンコインでとってもボリュームのあるメニューとなりました。

「松戸の味を感じながらお腹も満たす  
「みらい食堂」がオープン



もう食べきれないくらい！と大満足の皆さん。

対話を見える化する  
「グラレコ」が大活躍

ワークショップや講演会で話した内容をリアルタイムで絵や文字にまとめていく「グラフィックレコーディング(略してグラレコ)」が最近話題になっていますが、今回8名の方に協力していただいて導入しました。参加者からも「なんだか自分たちが話していることが凄いいことに感じてわくわくする！」と好評でした。



見ているだけで楽しい  
グラレコの模造紙は  
サポセンに掲示中！



Let's gra-reco!!



### まつどみらい会議 2019

～松戸を手づくりで面白くしよう！～



**日時** 2019年12月1日(日) 12時～16時半  
**参加者** 105名(団体45名、個人60名)  
**出展団体** 22団体(活動紹介のパネルを当日掲示)

▲まつどみらい会議の詳細に関してはこちら。

<http://www.matsudo-sc.com/works/miraiKaigi2019>

#### 話されたグループテーマ

- 「コネクト松戸⇄世界 写真展を通じてつながるプロジェクト」
- 「キテミテマツドに文化的活動広場を！」
- 「危機的状況にある不登校っ子の自信回復のために」
- 「全ての世代が楽しめるコミュニティホビーカフェを作りたい！」
- 「常盤平さくらまつりゴミゼロ大作戦」
- 「みんなで目指そう！！ユニバーサル社会の実現」
- 「松戸one team シニアの活躍」
- 「夜間中学をもっと広げて盛り上げるために」

# Challenger



## Teen's 遊びと語りの場 まつど\*あそびラボ

お問合せ 代表 天野有木子・矢淵心葉・麓加誉子

E-mail : matsudoasobilab.2019@gmail.com

Twitter : まつど\*あそびラボ / @LabMatsudo

facebook : facebook.com/Matsudoasobilab/



フェイスブック

「学校に行っている子も、行っていない子も、  
行くのがつらい子も

集まって遊んでしゃべって

共感できるつながりを広げたい。

分断されがちな不登校の子と親に毎日笑って  
のびのび過ごすための情報共有の機会を作りたい。」

と、子ども食堂で出会った不登校の中学生2人

そしてそのお母さんの3名で

2019年の2月に立ち上げた団体です。



### 本屋さんの 和室でおしゃべり会

月2回・日曜日&水曜日

子どもたちが好きなように好きなことを  
おしゃべりする会です。

### 親のおしゃべり会

不定期

不登校や行きしぶりの  
子の親の集まりです。

こんなイベントを  
開催しています

開催の回数等は目安です。  
詳しくはお問合せください！

### 里山で遊ぶ会

月1回・日曜日

広い里山の中で  
バドミントンや  
ハンモックや  
ブランコで遊びます。

### 体育館で 遊ぶ会

月1回

東部体育館で  
思い切り遊ぶ会です。

遊んでしゃべって  
共感できるつながりを広げよう！

「遊ぶ友達欲しい、女子で話したいよね！」と  
最初は不登校の同じ歳の女の子を対象にしていた  
のが、「不登校に限定する必要はある？」と変化し、  
10代の子の居場所作りとして、月1で「子どものお  
遊びの会」・月2（水・日）で「おしゃべり会」を開催。  
また、不定期で「不登校の親のおしゃべり会」も開い  
ています。

大人がやれば早いけれど、まず子どもたちがや  
りたがっている、そして子ども主体でやることに子  
どもが引き寄せられるのでは？という事で、中学  
生の2人も代表に始めた活動。現在はその2人の  
中学生にも運営の作業分担がされ、それぞれ連絡  
係、チラシ係と月初は特にイベントの告知があり、  
準備に忙しい。

不登校の子やそのご家族に  
気軽に遊びに来ていただきたい。

今までのイベント参加者は、親つなりの不登校  
の小中学生。ネットワークがまだ繋がっていない、  
自力で広がっていくのが難しい。宣伝と広報の弱さが  
課題との事。「不登校の子やその親御さん」こう  
いう（ほっと出来る）場があるという事を知って  
貰って、時間があれば遊びに気軽に来てくれればい  
いかなあ。」と、語ってくれました。

今後のやりたい事を聞くと

「よくイベントに来てくれる子達と

東京とか『お出かけ会』に行きたい！」

との提案に「天才だ！」と盛り上がり、

こちらまでワクワク、ほのぼのさせてくれる  
お三方でした。





スタッフ  
コラム

# 多様化していく 大学の地域連携のカタチ

今号ではさまざまなお金にまつわる取り組みをご紹介しましたが、私からは母校でもある千葉商科大学の「地域志向活動助成金」についてご紹介したいと思います。



まつど市民活動サポートセンター  
コーディネーター  
大石 果菜

## 大学の資金助成制度が 地域の面白い取り組みへのきっかけに！

これは「市川市とその隣接市で活動している団体へ資金助成と大学教員・学生をアドバイザーとしてマッチングさせる」制度。つまり、市川だけでなく松戸の団体でもOKです。「市川の大学が、市外の団体にも助成することで何か良いことが生まれるの？」と思われた方もいるかもしれませんが、かくいう私もそう思っていたのですが、この制度を使って大学とNPOがつながることで、まさに面白い取り組みが生まれています。

例えば、昨年11月に鎌ヶ谷市で行われた「新鎌イルミ」というイベントでは、この制度を活用した企画を行いました。これは当初は学生ボランティアの連携として大学へ相談があったのですが、色々話していくうちに「プロジェクションマッピングを制作できるゼミがあるので、オリジナルの作品を作るプロジェクトとして応募したら面白いかも」という話になり、今回の企画となったそうです。



プロジェクションマッピングの様子

## 直接的な「資金」だけではなく 「人」や「モノ」との連携が強み。

通常、プロジェクションマッピングを映像制作から依頼するとなると数十万単位の費用が必要となりますが、機材は大学側でレンタル、映像や準備は学生が実践の場として行い、今回はほとんどかからなかったとのこと。直接的な資金だけでなくこうした人やモノも含めての連携が取れるのもこの制度の強みです。当日は2300人の市民が集まり、次々に変わる映像に子どもたちも歓声を上げて大喜び。私も足を運んだのですが、助成制度をきっかけに連携した市民団体、学生、大学・行政職員といった人々がお互いに「よかったね」と話し、感想を話しあっているその光景にも価値を感じました。

「こうした制度を通して大学が地域の方々との関係を築くことで、学生が地域に出ていきやすくなる。また、大学内での研究を主とする教員も、地域の現場と結び付けてみると面白い取り組みが生まれたりするんです」と、千葉商大・地域連携推進センターのセンター長の朽木量先生。今年新たに「CUC市民活動サポートプログラム」というNPO向けの連続講座を開講します。市民活動で活かせる、管理会計や地域分析といった専門的な知識が学べるそう、NPOのスキルアップが大学でできるようなる、というのは面白い取り組みではないでしょうか。

ゼロから大学連携、というと難しく感じるかもしれませんが、こういった仕組みも活用しながら関係性をつくっていくことで、学生や大学とも連携しての面白い仕掛けがまちに生まれるきっかけにもなるかもしれませんね。

「新鎌イルミ」の様子はこちら

<https://www.cuc.ac.jp/news/2019/mstsp00000116mb.html>



「CUC市民活動サポートプログラム」についてはこちら

<https://www.cuc.ac.jp/event/2019/mstsp000001njak.html>



## サポセン 新規 届出団体 を紹介します！

2019年11月1日～2020年3月21日  
届出順・敬称略

- ★松戸デジタルものづくり まつぼっくり
- ★花・楽・押
- ★矢切健康づくりグループ
- ★集団ストーカー犯罪防犯パトロールACPちば
- ★なないろのハーフトーン
- ★生活クラブ千葉 松戸ブロック
- ★一般財団法人産業遺産国民会議
- ★Score Line
- ★長期療養児童と家族支援とうかつネットワーク
- ★マザリーちば
- ★牧の原一丁目町会
- ★まつど☆笑いヨガクラブ
- ★松戸市合気会
- ★Happy Harmony
- ★花の会
- ★ねぎのすけプロジェクト
- ★スコレまつど
- ★移動アートサロン樹季
- ★日本ボーイスカウト松戸第6団
- ★一般社団法人銀座環境会議
- ★ひこばえ俳句会
- ★まつど@みんなの子ども食堂ネットワーク
- ★まなクル倶楽部
- ★松戸なごみ会
- ★アロハメイツ
- ★宿りのまち
- ★社会福祉法人彩会 喜楽家
- ★ちばグリーンサポート



# イベントのチラシを効果的に使いたい!

皆さんにサポセンセンターのことや市民活動のことをもっと知ってもらうために、これまでに寄せられたご質問や実際の出来事などをもとに、仮想のストーリーに仕立てた「Q&A風」のコナーです。

小学生向けにバルーンアートのワークショップを行っているサチコさんが、チラシの掲示と印刷について相談に来ました。

地域の小学生たちの目に留まる場所に掲示したいな～



サチコさん  
コーディネーター

3 それと、ここの印刷機って3色刷りにできるんですよね。試してみたいんですけど、注意することってありますか?

1 もちろんOKですよ! サポセンの団体届出はされていますよね。

ここって、サークルでもチラシ掲示できますか?

実はちゃんと届出シートにも『チラシ等の掲示』が利用目的として書かれています。開催の1ヶ月前あたりに直接お持ちいただくのがお勧めですよ

実は…複数の色で刷る場合、作ったチラシのデータにパソコンでひと手間加えておく必要があります。事前の作業が必要なので、詳しくはサポセンのHPに載っている導入用の動画を見てみてくださいね!

その後…

4 サポセンでチラシ見ました、って子がたくさん来てくれました! 今後も定期的に利用しますね。

それは良かった! ちなみに、団体さんからのチラシがWeb上で見られる『チラシティまつど』がスタートしました。サポセンHPから見られますので、ぜひ使ってみてくださいね!

2 よかったです! ちなみに印刷室を使って増刷したいんですが…。他の部屋と同じように予約は必要ですか?

印刷室は予約はいりませんが、6月などは総会シーズンで利用待ちが起こることもありますので、余裕を持ってお越しくださいね。印刷用紙もご持参ください。

## サポセンの印刷室

2色同時印刷機(RISO リングラフ)を設置、活動をPRするチラシや会報、A3ポスターの大量印刷にご利用ください。

### 印刷代

製版1版50円、  
インク代1枚0.3円が  
かります。

※印刷室自体の  
利用料は不要です。

### 印刷機のドライバをインストールするには…

サポートセンターHP内、施設ページ  
(<http://www.matsudo-sc.com/services>)  
に掲載の動画をご参照ください。

※わからない場合/手書きチラシの場合は  
事前にご相談ください!



## サポセン ニュースレター



第19号(2020年季春号)

発行日: 2020年3月(※年4回発行)

発行元: まつど市民活動サポートセンター(指定管理者NPO法人まつどNPO協議会)

デザイン: トクナガリッコ

### 「ぼっく」の主な設置場所

松戸市内の図書館、市民センター、  
公民館など各種公共施設の他、  
松戸駅自由通路に設置しています。

### 「ぼっく」設置協力店

Sampo Café(八ヶ崎7丁目)  
古民家ホームシェア co-no-mi(吉井町2丁目)  
松戸観光案内所(本町)

## 「ぼっく」の配架にご協力いただける お店・施設を募集します!

ニュースレター「ぼっく」を、お店や施設に配架していただけませんか? ご協力いただいたお店・施設は、この欄で名称・所在地等をご紹介します。もちろん、無料でお届けし、部数もご要望に応じます。広告掲載も募集中です。詳しくは、まつど市民活動サポートセンターまで、お電話・メール等でお気軽にお問合せください。

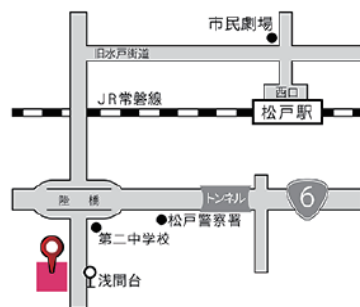


世界的にコロナ感染が広がっています。皮肉なことに今回の事態から、地球全体のつながり、一人では生きていく訳ではない事を再度痛感させられています。コロナの早急な終息を願うばかりです。(齋)



## まつど市民活動 サポートセンター

〒271-0094 松戸市上矢切 299-1(総合福祉会館内)  
TEL: 047-365-5522 FAX: 047-365-5636  
E-mail: hai\_saposen@matsudo-sc.com  
URL: <http://www.matsudo-sc.com/>  
facebook: <https://www.facebook.com/matsudo.sc>



◎開館時間: 月曜～土曜…9時～21時  
日曜…9時～17時  
◎休館日: 第1・第3水曜、年末年始(12/29～1/3)